

千葉県立博物館評価に係る有識者意見交換会 自己評価票(案)

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値	
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	資料のデジタル化数	今年度実績	件	1	B		
					館設定の目標	75件				
			2	収蔵資料の受入	今年度実績	4点	4			
					昨年度実績	2点				
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出(外部機関等展示等)	今年度実績	26件	2			
					昨年度実績	34件				
			4	館内利用(学術調査等)	今年度実績	13件	4			
					昨年度実績	12件				
			5	著作物資料への利用(出版物掲載等)	今年度実績	14件	3			
		昨年度実績			17件					
		調査研究	6	調査事業件数	件数	今年度実績	7件	4		A
						昨年度実績	7件			
7	共同調査事業件数		件数	今年度実績		/				
				昨年度実績						
8	研究成果の公開状況		論文研究報告	今年度実績	1件	4				
				昨年度実績	1件					
大項目 I の総合評価(A~D)							B			
博物館コメント	全体に調査研究事業は低調である。日々の体験や来館者の対応に追われているのが現状である。									
有識者コメント	【加藤】充実した体験メニューを精力的に実施している状況において、調査研究に取り組もうとしている姿勢は評価できる。指定管理を委託している県の理解を得て、調査研究にも取り組んでいただきたい。特に、資料のデジタル化に関しては、ホームページの充実による集客力アップにも直結することから、早期の目標達成を望みたい。 【飯田】博物館コメントの通りだと思われるが、ほとんどが昨年対比なので評価しにくい。年度によりそれぞれの事情があるなら昨年度比ではなく目標数を決めてそれに対する評価が望ましい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	今年度実績	259510人	4	B
						昨年度実績	248704人		
			2	企画展(千葉の鍛冶)	入館者数	今年度実績	11364人	4	
						昨年度実績	3511人		
			3	企画展(出土遺物公開展等)	入館者数	今年度実績	39813人	2	
						昨年度実績	54248人		
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	今年度実績	1回	4	A
						昨年度実績	1回		
			5	企画展(千葉の鍛冶)	実施回数	今年度実績	1回	4	
昨年度実績	1回								
6	企画展(トピックス展等)	実施回数	今年度実績	3回	4				
			昨年度実績	3回					
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績		4	A		
				今年度実績	96%				
	9		今年度実績						
大項目IIの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	企画展「千葉の鍛冶」は、知られざる郷土の生きた技術の再発見として、特に好評であった。なお、常設展示の入館者数は、カウントしていなかったが、風土記の丘資料館については、H28年度からカウントを始めた。								
有識者コメント	【加藤】職員が一体となって入館者の増加に努力している姿勢が評価できる。なかでも、企画展「房総の鍛冶」は農村を支えてきた鍛冶文化に焦点を当てた好企画で、現代産業科学館での展示にも結び付け、広く県民の理解を得てことも高く評価できる。 【飯田】入館者については順調と思われる。又、千葉の鍛冶展は郷土の文化として面白く評価でき、他にも生活に根付いたものにも力を入れて欲しい。								
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	今年度実績	109%	4	A
						昨年度実績	92%		
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	今年度実績			
						昨年度実績			
大項目IIIの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	外部資金は導入していないが、今後の検討課題の一つである。								
有識者コメント	【加藤】外部資金の導入は、事業体の実力を示す一つの基準でもあることから、引き続きご努力を願いたい。 【飯田】房総のむら単独で外部資金を導入することは難しいと思うが、栄町にとって房総のむらは観光産業のコアであり町のビジョンにも観光と連携した商工業の推進を上げており、町の考える地域の活性化と連携をして国や県等との連携事業を真剣に図らなければ100年経っても変わらない。								

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	今年度実績	26回	4	A
						昨年度実績	26回		
			2	HPでの利用状況	アクセス数	今年度実績	244361件	4	
						昨年度実績	203379件		
			3	報道機関への情報発信	取材件数	今年度実績	35件	4	
						昨年度実績	22件		
大項目Ⅲの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	HPへのアクセス数は、季節による大きな変動なく、コンスタントに多い。特に、桜の季節やまつりの前後に積極的なアクセスが見える。								
有識者コメント	【加藤】ホームページの更新回数がアクセス数に直結する傾向が強いので、情報アップ数を拡大するよう切に願いたい。 【飯田】今後はHPだけではなく、SNSを利用した情報発信を考える時期にあると考えます。HP(お店)を開いて見に来てね～から新たな手段に移行しなければ大きな伸びは期待できないと思います。								
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	今年度実績	458校	4	A
					学校数	昨年度実績	390校		
			2	入館者数	今年度実績	28582人	4		
					昨年度実績	26348人			
			3	生徒・児童	入館者数	今年度実績	25933人	3	
					入館者数	昨年度実績	28483人		
		4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	今年度実績	2校	4		
				学校数	昨年度実績	2校			
		5		利用者数	今年度実績	92人	4		
				利用者数	昨年度実績	64人			
		地域関係団体との連携	6	団体数	今年度実績	24団体	4		
					昨年度実績	24団体			
			7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	今年度実績	21回	3	
					利用回数	昨年度実績	24回		
8			利用者数	今年度実績	-	A			
			利用者数	昨年度実績	-				
9	友の会活動	利用人数	今年度実績	56人	4				
		利用人数	昨年度実績	56人					
10	ボランティア活動	活動延人数	今年度実績	1303人	4				
		活動延人数	昨年度実績	1205人					
大項目Ⅳの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	学校団体利用は、定評があり、定着している。地域連携についても定番の行事があり、一定の効果を上げているが、友の会の活動は停滞しており、見直しが必要な状況である。一方、ボランティア活動は、退職者を中心に年々参加者が増え、活性化している。								
有識者コメント	【加藤】友の会活動とボランティア活動の差異が少なければ一体化し、ボランティアの階層化によって活動を充実させるのも一考ではないか。 【飯田】何事にも常にソリューションしていくスタンスがすべて面で必要だと思います。								

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値	
VI	教育・普及活動	来館状況	1	考古学講座	参加者数	今年度実績	155人	4	B	
					参加者数	昨年度実績	122人			
			2	講座	大道芸入門	参加者数	今年度実績	360人		2
						参加者数	昨年度実績	528人		
			3			参加者数	今年度実績	-		
							参加者数	-		
			4	体験教室	出張体験	参加者数	今年度実績	734人		4
						参加者数	昨年度実績	538人		
		5	体験教室	新規演目	参加者数	今年度実績	2357人	4		
					参加者数	昨年度実績	2086人			
		6	体験教室	ガイドツアー等	参加者数	今年度実績	324人	3		
					参加者数	昨年度実績	328人			
		7	ワークシートを利用した「むら探検」		参加者数	今年度実績	22737人	4		
					参加者数	昨年度実績	20464人			
		8	学校団体体験		参加者数	今年度実績	35962人	3		
					参加者数	昨年度実績	36866人			
		総合的な満足度	体験教室	勾玉作り	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績		4	A	
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績				96.6					
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績				99.7					
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績									
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績									
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績									
満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	今年度実績									
17	相談件数(来館、メール、電話等)	利用件数	今年度実績	528件 419件	4	A				
大項目Ⅴの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	一般の体験や講座では、個別のアンケートを実施していない。27年度は、学校体験の一部についてアンケートを実施したところ、満足度はきわめて高かった。しかし、説明内容の理解度については、良くわかったは73.4%で、さらに工夫が必要といえる。									
有識者コメント	【加藤】全ての成果に対して高く評価できる。県内市町村の観光振興課題に体験メニューの充実があるので、これまでの体験メニューづくりのノウハウを公開する「体験メニューを創造する講座」等の開設も検討したい。 【飯田】それぞれのスキルアップとシステムも必要だが課題についてのソリューションとモチベーションアップ策が必要。									
VII	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	今年度実績	7人	3	B		
					今年度実績	8人				
			2	教員等の研修	今年度実績	15人				
					今年度実績	19人				
		3	職場体験	今年度実績	14人	3				
				今年度実績	18人					
4	インターシップ	今年度実績	5人	1						
		今年度実績	13人							
安全管理	5	研修会の開催	実施回数	今年度実績	12回	4	A			
			実施回数	今年度実績	12回					
6	防災訓練実施等		実施回数	今年度実績	1回	4				
			実施回数	今年度実績	1回					
大項目Ⅶの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	依頼先の事情もあり、要請に応じて受け入れている。									
有識者コメント	【加藤】中、高校生の職場体験の受け入れについて、さらにご検討を願いたい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明			
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	今年度実績	225団体	3	B
					231団体			
			2		今年度実績	9992人	3	
					11364人			
			3	外国人来館入込	今年度実績	76団体	4	
					75団体			
			4		今年度実績	5621人	3	
					6183人			
大項目Ⅷの総合評価(A~D)							B	
博物館コメント	国内の来館団体は大きな変動なく、外国人の来館者数は数年の状況を見ると増加傾向にある。							
有識者コメント	【加藤】他国を複数回訪れるする外国人観光客は、文化に対する関心を示す割合が高くなることから、成田空港に近い立地を活かした県内インバウンドの拠点としての役割をさらに果たされるよう望みたい。 【飯田】外国人の入館者の増加傾向は自然増の範疇なのか？施策によるものか分からない評価のしようがない。何か施策を打つことで更なる増加が見込めるなら方法を検討すべきではないか。							
総合評価(A~D) [各達成度の平均]							A	
総合評価と次年度への対策	体験博物館としての使命は果たしているが、調査研究・展示などの分野をいかに充実させるかが課題である。本来、商家の街並みはその時代の生業を2階で展示し、店先で体験する趣向であり、調査・研究の成果を反映させるという所期の目的を再認識する必要があると思われる。また、平成4年以来、展示内容をほとんど更新していなかった風土記の丘資料館の展示については、平成30年度の展示リニューアルを計画して準備を進めている。なお、達成度と内容の評価は必ずしも一致していない。							

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	【加藤】 指定管理の強みを活かした運営努力に敬意を表します。今後共、児童生徒への文化と知恵の伝承、地域のインバウンドに対する期待、千葉県を支えてきた文化、技術に泥臭く光を当て続ける活動を期待します。また、町並み家屋の2階展示室の充実と誘導を図られるよう望みます。
	【飯田】 調査・研究・展示(入館者数&満足度)の考え方を少し見直して、より多くの人にとってもらい更に満足度を上げていくためにはどうしたら良いか？逆転の発想をしない限り、上記の自己評価のように体験博物館としての使命を果たしている・・と言う状況から大きく変わらないように感じます。他の博物館、美術館と違って地域との連携を実践して有料入館者増・売上増を図り、そこから調査・研究の要員や手段をシミュレーションしてはどうか？と考えます。

【博物館記入】

意見への対応	<p>I: 収蔵資料のデジタル化については、各グループ(広報・普及、風土記、農家、商家)の状況を確認し、次年度の対応を計りたい。調査研究事業についても各グループの体制や特性を生かして進める必要があると思う。</p> <p>II: 入館者数と来館者の満足度は、まつりやイベント日の天候に大きく左右されるが、雨天の対応にも工夫している。企画展については、この地の歴史と伝統文化に根ざした企画を継続したい。</p> <p>III: 財源の確保に関しては、ご指摘のとおり、地元の町・県・国との連携事業を開拓する努力を計る必要がある。</p> <p>IV: 広報活動の積極的な展開について。SNSの活用は、Wifi環境の拡充と共に広報・普及の検討課題である。</p> <p>V: 学校及び地域との連携・協働。学校との連携については、受け入れと共に出前事業にも効果を期待している。地域のボランティア活動は、お任せ傾向にあるが、講習の開催などを通して館との連携を計りたい。</p> <p>VI: 教育・普及活動。近隣の博物館だけでなく、西日本、東北など全国の博物館の活動成果に目を向けて、ソリューションを試みたい。VII: 人材育成と安全管理。部活動と受験で忙しい中高生を引きつけるのはかなり難度高いと感じる。ロケ地情報などによって館に足を向けることも必要かもしれない。</p> <p>VIII: 観光資源としての活用。内外の来館者を問わず、リピーターが満足できるかどうか課題である。まつりの日数を少し減らしても、職員の共通理解を図る場を設定して、ソリューションを行う必要があると思う。</p>
--------	--